

法蔵 330号 四月号

・4月12日(日)午後0時より 「定例法話会」お話ししていただく布教使さんは、滋賀県近江八幡市の正明寺の杉本智師です。初めて来ていただく方です。お参りをして、住職の調理した美味しいカレーライスを食べ、元気を出して、お話を聞きます。2時半終了予定です。どの時点から参加されてもかまいません。心からお待ちいたしております。

・4月28日(火)午後1時より 「親鸞聖人御命日のお参り」

・5月12日(火)午後0時より 「定例法話会」お話ししていただく布教使さんは、まだ決まっていません。
「仏さまの教えを聞かせていただきましょう!!!」

・5月28日(木)午後1時より 「親鸞聖人御命日のお参り」

・5月31日(日)午前11時より 「順信寺札幌地区報恩講」 今年東本願寺札幌別院現来寺支院で行う予定です。歌登の山菜でお齋を行いたいと思っています。皆楽しみにしてくれておりますので、なにとぞ山菜の御協力御提供の程よろしくお願いいたします。

○ 新型コロナウイルスの感染拡大予防のため予定しておりましたおみがきもの、3月の定例法話会は中止、お彼岸のお参りを例年とは違う形で行いました。色々と問題を生じているご家庭もあるかと思いますが、くれぐれも第二の矢である偏見や差別や仲たがひ等そしてデマ等に充分注意したいと思っております。今こそ人間の英知を出し合い、今を生きる者として協力し合う時であると思っております。・・・・・・・・・・3月16日午後7時頃ピンポンと玄関の呼び鈴が鳴りました。順信寺の御門徒さんが消毒液を持って来てくれたのです。彼岸の入り前の夜の大変うれしい出来事でした。その心が温かく有難く、生きていく力を頂きました。早速、使わせていただきました。有り難うございました。

○ 順信寺のツツジが咲く6月ころに、今年はずいぶん帰敬式(おかみそり)、仏弟子となり法名を頂く式を行いたいと思っております。関心のある方はお気軽にご相談ください。詳しくご説明させていただきます。

「仏教の勉強は非常に簡単です。それは、<そこに人がいるということがわかる>ということです。つまり、自分と同じように、悩んだり、苦しんだり、いろいろな思いをいだけて生活している人がいるということに気づくということです。(大谷専修学院 指導主事 武宮頭紹)

～そう言えば加藤登紀子が「愛する人があるのなら その胸に抱いておやり 胸の鼓動が 聞こえるほどに その胸に抱いておやり・・・」（「愛する人があるのなら」と歌っていましたね。他人も苦手なあの人も、自分と同じ心臓がドキドキと動いている人、ご縁をいただいて生きている人なのだという、あたり前の事実を目覚めるということでもあるのでしょう。想像力の大切さを思います。

「大人になるということは、人に迷惑をかけない立派な人間になることではなく、人に迷惑をかけずには生きることができない、そういう自分をよく知っていくことだ。」
(大谷専修学院 指導主事 武宮顕紹)

～私だけは、迷惑をかけていないと思ってしまい、なかなかいくつになっても大人になれません。立派に自分は気づかいをしていると、ついつい自分自身を高く評価してまいります。自分で自分の事実を見るというのは難しいことだと思います。だから人はみな仏法に耳を傾けなければならないのだと思います。

「司馬遼太郎は随想の中で少年期に体験したある出来事を想起している。それは中学時代、国語の教員との間で交わした問答であり、「凡夫とはどういうことか」と問われた司馬少年は、「つまらぬ人」と答えたという。すると、それを受けて先生は、「ところで凡夫とはだれのことや」と質問を重ねたが、クラスの全員が答えに窮してしまっただけ、先生の方から「おどろくべき正解」が出された。

凡夫とは、つまりわれわれのことやな。

さらに先生は、日本の歴史上で、「最初に凡夫であると悟られた」のは法然と親鸞であり、それが「もっとも偉大な発見」であると述べたという。この出来事を、司馬は幼少の頃に蒔いてもらった「かんじんなことのたね」として述懐している。」
(名和達宣「司馬遼太郎と浄土真宗」より)

～浄土真宗は立派な人になるのではなく、人の事実に帰るということを教えているのであり、それは勇気のいることであり大切なことだと思います。共に悩みや憂い^{うれい}を抱えて生きている凡夫であるという現実を、地に足を付けてじっくりと聞かせていただきたいと思います。

- ・忠峰コーナー 「雪解水 流るる川を じっと見る」
「新入生 ニコニコ顔で 手を振って」